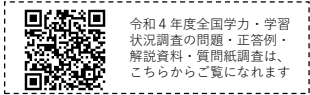


<調査の概要>

1. 調査の目的
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
2. 調査実施日 令和4年4月19日(火)
3. 調査の対象 小学6年生：国語・算数・理科・質問紙
中学3年生：国語・数学・理科・質問紙
4. 調査を実施した学校数 小学校：24校 中学校：11校

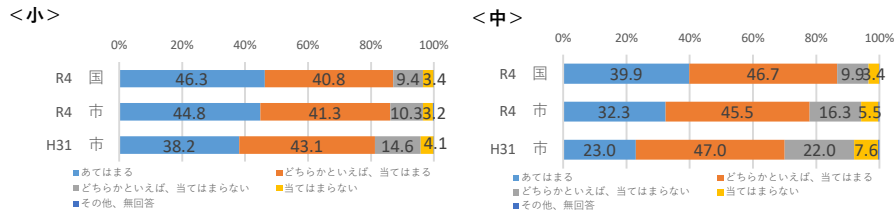


<調査結果の概要>

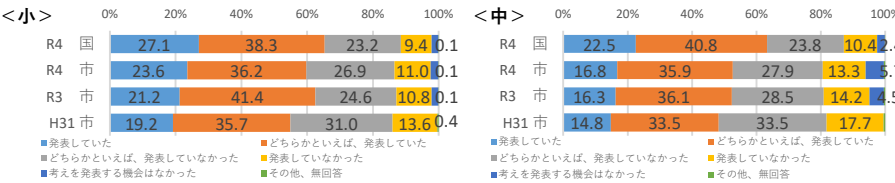
- ・教科に係る結果では、小・中学校の平均正答率は、いずれの教科においても全国の平均正答率と比べて低く、厳しい状況が続いています。各学校では、かねてより児童生徒に確かな学力がつく授業をめざして、日々授業の改善に努めているところですが、学力の定着については依然として大きな課題があると認識しています。
- ・児童生徒の質問紙調査では、教員への肯定的な感情や自分たちが主体的に授業に参加していると感じている児童生徒の割合の向上がみられ、学校の取組みの成果が見て取れます。
- ・教育委員会としては、児童生徒に学力を着実に身につけることのできる授業が全ての教室で実現されるよう、さらに取組みを強化していきます。また、児童生徒の生活習慣・学習習慣にも依然として大きな課題があることから、学校が家庭・地域とより一層連携した教育活動が進められるよう支援していきます。

<質問紙調査より(学校・学習について)>

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



小学5年生(中学1,2年生)のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問では、「あてはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合が、H31年度より増加しており、小学校では全国平均とほぼ同じ状況です。各学校では、授業改善とともに、子どもたちの主体的な活動を重視し、そのがんばりを認め自己有用感や意欲を育む「成長を促す指導」に取り組んでおり、その成果が表れてきていると考えられます。

・また、授業の中で自分の考えを発表する際の工夫を聞く質問では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する児童生徒の割合に改善がみられ、各学校の授業改善の取組みが子どもたちに届きつつあると考えられます。

<教科の平均正答率について> (R2は実施せず)

小学校	R1			R3			R4		
	岸和田市	全国	対全国比	岸和田市	全国	対全国比	岸和田市	全国	対全国比
国語	53	63.8	0.83	55	64.7	0.85	56	65.6	0.85
算数	60	66.6	0.90	64	70.2	0.91	57	63.2	0.90
理科							53	63.3	0.83

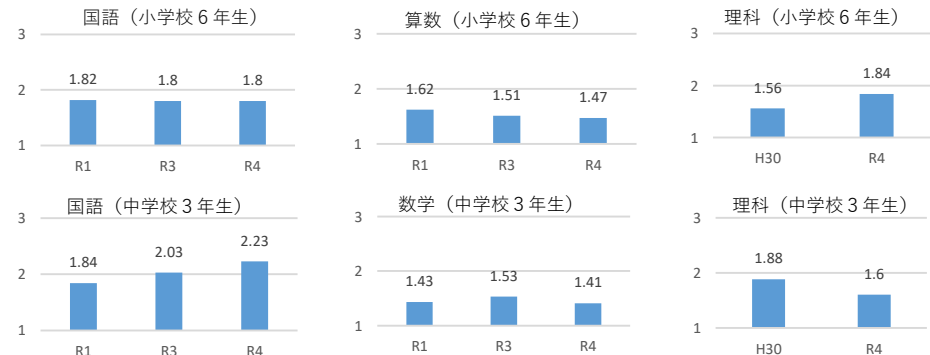
中学校	R1			R3			R4		
	岸和田市	全国	対全国比	岸和田市	全国	対全国比	岸和田市	全国	対全国比
国語	63	72.8	0.87	55	64.6	0.85	59	69.0	0.86
数学	52	59.8	0.87	48	57.2	0.84	43	51.4	0.84
理科							40	49.3	0.81

・平均正答率の対全国比は、小・中学校ともに前々回(R1)、前回(R3)と比較して、国語・算数/数学ともにほとんど変化は見られませんでした。理科についても、前回(H30)と比較すると、小学校は0.05ポイント、中学校は0.08ポイント下回る結果でした。子どもたちの解答状況からは以下の課題が見て取れました。

- <小学校>
国語：計画的に話し合い、自分の考えをまとめることや、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
算数：割合についての意味(全体量が変わっても割合は変わらない)の理解。
理科：実験器具の名称など基礎的な知識の定着。問題に対するまとめの根拠を実験結果を基にして書くこと。
- <中学校>
国語：「自分の考えが分かりやすく伝わるように」スピーチを考えたり、その根拠を資料から引用して書いたりすること。
数学：一次関数の変化の割合の意味理解や、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること。
データの基本的な意味を理解し、読み取ること。
理科：収集したデータや実験結果から考察をしたり、考察の妥当性を高めるために実験計画を検討して改善したりすること。

・各学校では問題解決的な学びを通して理解を深めたり、対話を通して自分の考えをまとめたり、日常生活や社会と関連付け、様々な場面で活用したりする学習を、より一層積み重ねる必要があると考えます。

<正答率40%以下の児童生徒の割合(全国を1とした場合)>



正答率40%以下の児童生徒の状況は、小学校算数、中学校数学・理科では、全国に比べて高い割合であるものの改善傾向が見られました。一方、小学校理科、中学校国語では増加しました。特に、中学校国語は増加傾向にあります。言語能力については、国語の授業はもちろん、すべての教科の授業で育成を図るよう学校に対し指導・助言を進めていきます。

また、学習内容の定着に向けては、放課後学習支援事業(まなびサポート)を小学校で、学びの土台づくり推進事業(コグトレ)を幼稚園・小中学校で引き続き実施するとともに、学習支援員を全小中学校に配置し、学習内容の定着に課題のある児童生徒へのきめ細かな支援を実施してまいります。

＜質問紙調査の結果概要＞



広報きしわだ 令和4年8月
号特集記事には、学校での取
組みや家庭・地域での子育て
のポイントを掲載しています

・「朝食を毎日食べていますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小中学校とも昨年度よりも下回っています。生活習慣が整うことによって、心身ともに安定した状態で学習に向かうことができます。

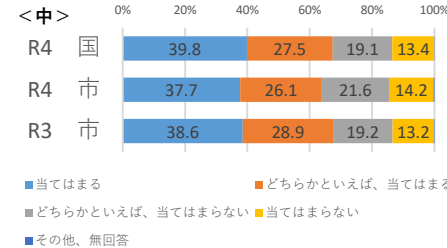
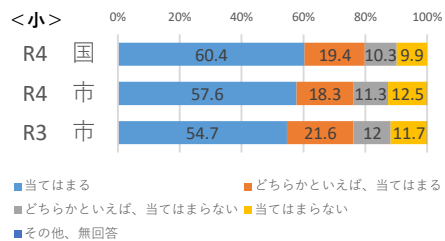
・「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は全国を下回っています。特に中学校においては10ポイント以上下回っています。自己有用感を高めるための取組みをさらに充実させる必要があります。

・「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、肯定的な回答をする児童生徒の割合は、昨年度から大きな変化はありません。コロナ禍等の社会情勢の変化による子どもへの影響に留意しつつ、子どもたちが夢や目標を持つように学校や家庭・地域で取組みを進めていく必要があります。

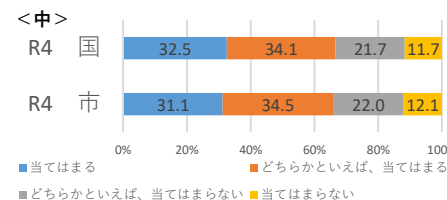
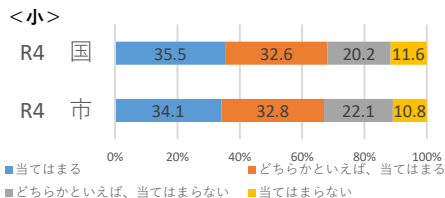
・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに国の平均とほぼ同じ割合（約7割）になっています。子どもたちには、学校以外にも様々な相談先があることを十分に周知することが必要です。

・「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。」という質問に対して、「4時間以上」と回答した児童生徒の割合が全国の約2倍となっています。また、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」という質問では、「全くしない」と答えた児童生徒の割合は小学校では全国の約3倍以上、中学生では約2倍以上となっています。SNSや動画視聴が、家庭学習の時間を圧迫していることが伺えます。児童生徒の学習習慣の定着に向けて、家庭とともに取り組んでいく必要があります。

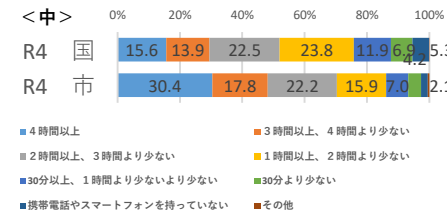
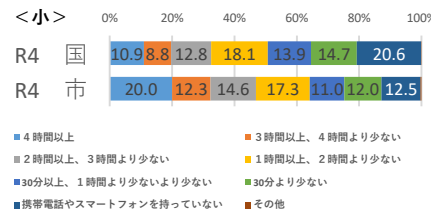
将来の夢や目標を持っていますか



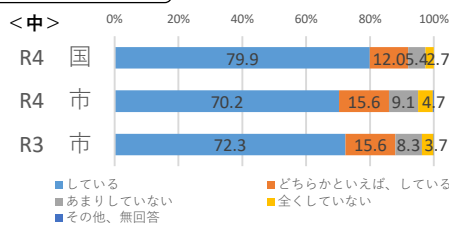
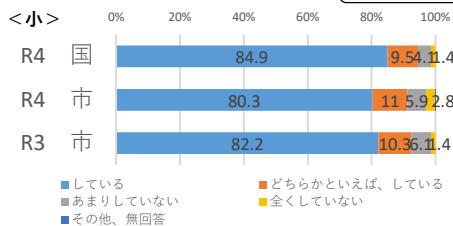
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



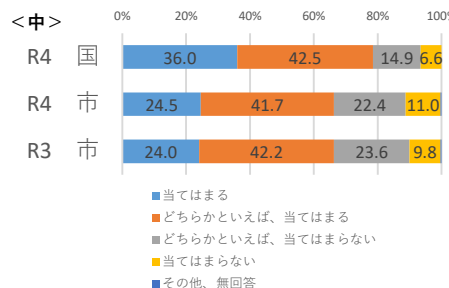
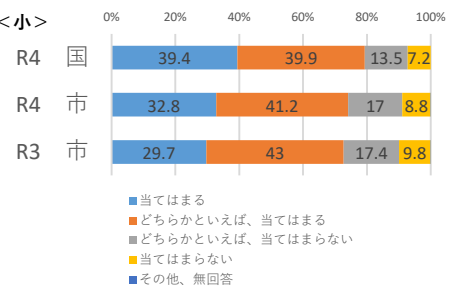
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）



朝食を毎日食べていますか



自分には、よいところがあると思いますか



学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

